



# PFU 環境報告書 2023

## 会社概要

会社名 : 株式会社 PFU  
資本金 : 150 億円  
売上 : 1,345 億円 (2022 年度連結)  
社員数 : 4,207 名 (PFUグループ 2023 年 5 月現在)  
設立 : 1962 年 5 月 (創業 : 1960 年 11 月)  
株主構成 : 株式会社リコー、富士通株式会社  
本社所在地 : 石川県かほく市宇野気ヌ 98-2

## 主要な事業内容

### ■ドキュメントイメージング事業

- ・イメージスキャナーの開発・製造
- ・業務用 OCR、帳票開発支援、ドキュメント管理など、ソフトウェア製品の開発とサービス
- ・キーボード装置など、個人向け製品の開発・製造

### ■エンベッドコンピュータ事業

- ・組み込みコンピューティング製品の開発・製造
- ・ネットワークセキュリティアプライアンス製品の開発・製造
- ・セルフ端末製品の開発・製造

### ■インフラカスタマサービス事業

- ・マルチベンダー・自社製品保守サービス
- ・インストールキッティング・工事・展開サービス
- ・インフラ・クラウド導入 & 運用保守サービス
- ・ネットワーク・セキュリティ構築 & 運用保守サービス

## 主要事業所

本社 : 石川県かほく市  
横浜本社 : 神奈川県横浜市  
ProDeS センター : 石川県かほく市  
関西オフィス : 大阪府大阪市  
東海オフィス : 愛知県名古屋市

## PFU グループ (2023 年 4 月 1 日現在)

### ・関係会社 (国内全 4 社)

PFU IT サービス株式会社  
PFU クオリティサービス株式会社  
PFU テクノワイズ株式会社  
PFU ライフエージェンシー株式会社

### ・関係会社 (海外全 8 社)

PFU 上海計算機有限公司  
江蘇南通必優信息系統有限公司  
PFU America, Inc.  
PFU Canada Inc.  
PFU(EMEA) Limited  
PFU Hong Kong Limited  
必福优信息设备(深圳)有限公司  
PFU Asia Pacific Pte. Ltd.

## 目次

- 02 トップ・メッセージ
- 03 環境方針
- 04 環境マネジメントシステム
- 06 PFU 環境行動計画
- 14 カーボンニュートラル
- 15 環境啓発・コミュニケーション
- 16 情報開示
- 17 環境パフォーマンスデータ
- 23 内部監査・外部審査
- 24 PFU グループの取り組み

### 掲載期間

本レポートの掲載対象期間は、2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日です。2022 年 3 月以前もしくは 2023 年 4 月以降の内容も一部含まれます。

本レポートは、株式会社 PFU 及び PFU グループの環境に関する情報を開示するために制作しました。

### デジタル化の入り口とそこから繋がる業務の改革を支援し お客様の“はたらく”を変えることに貢献します



我々PFUは、石川県宇ノ気の地に創業し、オフコンのトップメーカーの地位を築き上げたユーザック電子工業とミニコンのトップメーカーとなったパナファコムを原点に「愚直さ」「粘り強さ」「挑戦魂」「進取の精神」というDNAを受け継いできました。

2000年の構造改革という大きな転換期においてもそのDNAは失うことなく生き続け、「お客様の期待に真摯に応える」こと「ものづくりへのこだわりと技術力」をベースに「圧倒的 No.1 商品を生み出し続けるスキャナー」「高品質で高性能なコンピュータ」「誠実でお客様のためにを忘れないソリューション、サービス」など、常にお客様の現場に価値を提供する商品・サービスを生み出し、成長してきました。

これらのPFUの提供している価値は、お客様のデジタル化の入り口を支援し、その土台作りを提供しているといえます。スキャナーはドキュメントを加工しやすい形でPCに取り込む入り口でありそこから始まる業務処理を支援します。組込みコンピュータも産業用コンピュータの土台とも頭脳とも言えるコアユニットを提供することで間接的にお客様のデジタル化に貢献します。マルチベンダ保守もマネージドサービスもインフラをより使いやすくするための土台のサービスです。お客様のデジタル化の入り口や土台作りに貢献している我々は、今後、これまでのオフコンやSI、社内の業務改革の実践で培った業務ノウハウをプラスし、お客様の業務を改革する事業に広げていくことを目指します。

デジタルサービスの入り口としてエッジデバイスを進化させ、お客様の業務プロセスの改革・DXを支えるサービスを提供し、これによってお客様の“はたらく”を変えることに貢献していきます。



代表取締役社長 村上 清治

# 環境方針

リコーグループでは、実施すべき環境保全に関する基本方針と行動指針を「環境綱領」として明示しており、PFU はこの方針のもとに環境活動に取り組んでいます。

## 環境綱領

### 基本方針

リコーグループは、環境保全は我々地球市民に課せられた使命と認識するのみならず、環境保全活動と経営活動を同軸であるとならえ、自ら責任を持ち、全グループをあげてその活動に取り組む。

### 行動指針

#### 1. 高い目標

法規制の遵守はもとより、自らの責任において、社会の期待を先取りした高い目標を設定し、その実現を通じて経済価値の創出に努めていく。

#### 2. 環境技術開発

顧客価値を創造し、広く社会にも活用される革新的な環境技術開発をすすめていく。

#### 3. 全員参加の活動

すべての事業活動において環境への影響を把握し、全員参加で汚染予防や、エネルギーおよび資源の有効利用について継続的改善を行っていく。

#### 4. プロダクト・ライフサイクル

商品とサービスの提供にあたっては、調達・生産から販売・物流・使用・リサイクル・廃棄に至るすべての段階における環境負荷の低減に努めていく。

#### 5. 意識向上

一人ひとりが広く社会に目を向け、積極的な学習を通して意識向上を図り、自ら責任を持って環境保全活動を進めていく。

#### 6. 社会貢献

環境保全活動への参画・支援によって、持続可能な社会の実現に貢献していく。

#### 7. コミュニケーション

ステークホルダーと連携した環境保全活動を展開し、積極的なコミュニケーションを通して社会の信頼を得る。

1992年2月制定 2008年2月改定

# 環境マネジメントシステム

## 外部認証の取得実績

ISO14001 環境マネジメントシステム規格が発行された 1996 年 10 月に、当時の笠島事業所(石川県)で認証を取得しました。その後、認証事業所を拡大し、2008 年 10 月までに国内事業所及び全国の営業・保守サービス拠点のすべての組織、2010 年 3 月に海外関係会社の一部で認証を取得しました。

2014 年 10 月に東京本社及び東京開発センターの機能を新設の横浜本社に移転したことに伴い、2015 年 3 月に認証範囲を変更しました。

リコーグループの一員となったことにより、2022 年 12 月に PFU としての独自認証を返上し、リコーグループ ISO14001 に統合しました。

- 1996 年 10 月 : 笠島事業所(石川県)
- 2001 年 05 月 : 本社/石川開発センター(石川県)、東京開発センター(東京都)
- 2004 年 04 月 : 東京本社 (神奈川県)
- 2006 年 02 月 : 関西オフィス(大阪府)、東海オフィス(愛知県)、新橋オフィス(東京都)
- 2006 年 11 月 : ProDeS センター(石川県)、PFU テクノワイズ高松工場(石川県)
- 2008 年 10 月 : 全国の営業・保守サービス拠点(21 拠点)
- 2010 年 03 月 : PFU 上海計算機有限公司 (中華人民共和国 上海市)
- 2015 年 03 月 : 横浜本社 (神奈川県) (東京本社及び東京開発センターを統合)
- 2016 年 04 月 : PFU クオリティサービス株式会社(神奈川県)
- 2022 年 12 月 : リコーグループ ISO14001 に統合
- 2023 年 06 月 : PFU IT サービス株式会社 (神奈川県)



本社



横浜本社



ProDeS センター

## ISO14001 認証内容

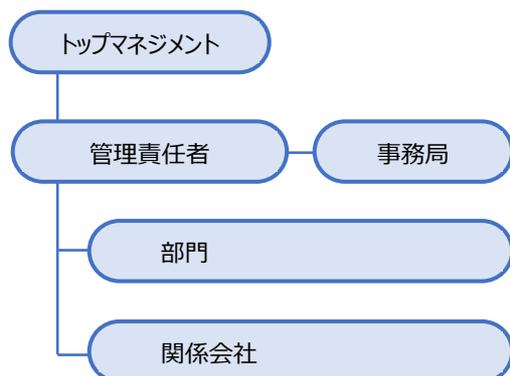
登録範囲 : 株式会社 PFU および PFU IT サービス株式会社、PFU クオリティサービス株式会社、PFU テクノワイズ株式会社、PFU ライフエージェンシー株式会社、PFU SHANGHAI CO., LTD. におけるコンピュータ、周辺装置、応用装置のハードウェア並びにソフトウェアの設計・開発、製造、販売、保守

- 登録番号 : JQA-E-70001
- 登録日 : 1996 年 10 月 29 日
- 改訂日 : 2023 年 6 月 9 日
- 登録機関 : 一般財団法人 日本品質保証機構

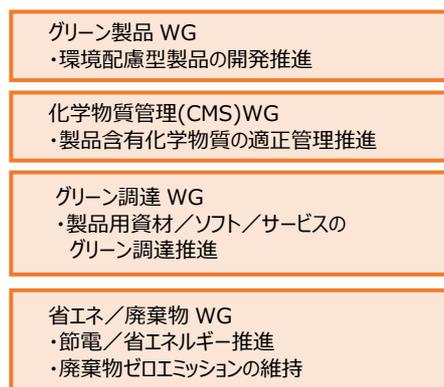


## 環境マネジメント体制

### <環境マネジメント組織>



### <社内WG体制>



### 主な受賞歴、認証等

- 1992年 省エネ推進石川県知事表彰受賞
- 1994年 エネルギー管理優良工場中部通産局長賞受賞
- 1999年 エネルギー管理優良工場資源エネルギー庁長官表彰受賞
- 2002年 いしかわグリーン企業知事表彰受賞
- 2010年 第14回「環境経営度調査(日経)」製造業ランキング 31位  
オフィス機器の米国独立評価機関 BLI 社よりスキャナー部門「年間最優秀ラインナップ賞 (Line of the Year)」受賞情報セキュリティ格付「A is」を取得
- 2011年 省エネ推進/高効率反射板設置 石川県職域創意工夫功労者表彰(津田米次郎賞)受賞
- 2013年 エネルギー管理優良事業者日本電気協会北陸支部会長表彰受賞(ProDeS センター)
- 2014年 「ScanSnap SV600」が「価格.com プロダクトアワード 2013 スキャナ部門」銀賞を受賞  
石川県「いしかわ版里山づくり ISO」認証
- 2015年 標的型サイバー攻撃・内部対策アプライアンス「iNetSec Intra Wall」が Interop Tokyo 2015「Best of Show Award」でグランプリを受賞  
横浜市「ハムロード・サポーター」認定
- 2016年 エコマークアワード 2015 受賞(イメージスキャナー)
- 2017年 エネルギー管理優良事業者日本電気協会北陸支部会長表彰受賞(本社)
- 2018年 健康優良法人～ホワイト 500～に認定(PFU グループ)
- 2019年 女性活躍推進法に基づくえるぼし最高位の認定を取得(PFU)  
「fi-800R」が 2019 年度グッドデザイン賞を受賞  
健康優良法人～ホワイト 500～に認定(PFU グループ)  
the China Environmental Label Excellence Enterprise Award 受賞(富士通情報システム(深圳) 有限公司)
- 2020年 健康優良法人 2020(大規模法人部門)に認定(PFU グループ)  
いしかわエコデザイン賞 銀賞を受賞(BIP Smart)  
KAIKA Award KAIKA 賞を受賞(Rising-V 活動)
- 2021年 健康優良法人 2021(大規模法人部門)に認定(PFU グループ)  
「ScanSnap iX1300」が 2021 年度 グッドデザイン賞を受賞  
PFU の米国子会社 Fujitsu Computer Products of America, Inc. が環境への取り組みを評価され「U.S. EPA 2021 SmartWay®Excellence Award」を受賞
- 2022年 健康優良法人 2022 (大規模法人部門) に認定(PFU グループ)  
がん対策推進優良企業として表彰受賞
- 2023年 BCN スキャナー部門 13年連続シェア No.1 を獲得



# PFU 環境行動計画

第 10 次環境行動計画(2022 年度～2024 年度)の状況は、以下の通りです。

項目	内容	2022 年度実績	2023 年度計画	2024 年度計画			
Green Solution	環境配慮型製品の継続的な創出と提供 	エネルギー効率トップレベル製品の創出	スキャナー製品	国際エネルギースター-Pro Ver3.X 適合製品 100%(2機種)	国際エネルギースター-Pro Ver3.X 適合製品 100%	国際エネルギースター-Pro Ver3.X 適合製品 100%	
			組込みコンピューティング製品	製品環境性能指数 4.40 顧客先環境貢献 7,803t-CO <sub>2</sub>	製品環境性能指数 4.30 以下 顧客先環境貢献 8,855t-CO <sub>2</sub> 以上	製品環境性能指数 4.13 以下 顧客先環境貢献 10,052t-CO <sub>2</sub> 以上	
			情報 KIOSK 端末	製品環境性能指数 15.74 顧客先環境貢献 1,765t-CO <sub>2</sub>	製品環境性能指数 14.50 以下 顧客先環境貢献 1,318t-CO <sub>2</sub> 以上	製品環境性能指数 12.00 以下 顧客先環境貢献 876t-CO <sub>2</sub> 以上	
				ネットワークアライアンス製品	製品環境性能指数 0.545 顧客先環境貢献 274.8t-CO <sub>2</sub>	製品環境性能指数 0.519 以下 顧客先環境貢献 274.2t-CO <sub>2</sub> 以上	製品環境性能指数 0.494 以下 顧客先環境貢献 276.5t-CO <sub>2</sub> 以上
			セキュリティ製品	製品環境性能指数 0.264 顧客先環境貢献 631.7t-CO <sub>2</sub>	製品環境性能指数 0.251 以下 顧客先環境貢献 668t-CO <sub>2</sub> 以上	製品環境性能指数 0.238 以下 顧客先環境貢献 709t-CO <sub>2</sub> 以上	
				ソリューション	顧客先環境貢献 6,736t-CO <sub>2</sub>	顧客先環境貢献 4,706t-CO <sub>2</sub> 以上	顧客先環境貢献 4,815t-CO <sub>2</sub> 以上
			環境ラベル適合 (米国 EPEAT)	スキャナー製品	米国 EPEAT 維持・拡大 適合製品 100%(2機種)	米国 EPEAT 維持・拡大 適合製品 100%	米国 EPEAT 維持・拡大 適合製品 100%
			2	環境配慮ソリューション・サービスの推進 	環境に配慮したソリューション、サービスの提供拡大による顧客先業務における環境負荷低減	9 部門/9 部門	各部門 1 項目以上 (対象全部門)
	3	グリーン調達 	積極的に環境配慮に取り組む取引先からの調達推進	サプライチェーン上流における CO <sub>2</sub> 排出量削減、及び水資源安全の取り組みを推進: 取引先の活動状況把握 100%(18社)	サプライチェーン上流における CO <sub>2</sub> 排出量削減、及び水資源安全の取り組みを推進: 取引先の活動状況把握 100%	サプライチェーン上流における CO <sub>2</sub> 排出量削減、及び水資源安全の取り組みを推進: 取引先の活動状況把握 100%	
	Green Process	4	品質向上、業務効率化 	業務改善で環境負荷低減	24 部門/25 部門	各部門 1 項目以上 (対象全部門)	各部門 1 項目以上 (対象全部門)
5		地球温暖化対策の推進 	事業拠点の GHG 排出量を削減	GHG 排出量: 4,930 t-CO <sub>2</sub> (2013 年度比:40%削減)	GHG 排出量: 4,988 t-CO <sub>2</sub> 以下 (2013 年度比:40%削減)	GHG 排出量: 4,685 t-CO <sub>2</sub> 以下 (2013 年度比:42%削減)	
Green Mind	6	環境行動文化の浸透 	環境社会貢献活動、生物多様性保全活動、環境運用改善	社会貢献活動推進 (21 件)	社会貢献活動の推進 (23 件)	社会貢献活動の推進 (24 件)	
				環境情報の共有・発信・環境活動運用改善の推進(14 件)	環境情報の共有・発信・環境活動運用改善の推進(14 件)	環境情報の共有・発信・環境活動運用改善の推進(15 件)	
			リコー-ISO14001 統合認証への移行完了	マネジメントシステム継続的改善	マネジメントシステム継続的改善		

## 2022 年度活動結果

2022 年度は、第 10 次環境行動計画(2022-2024)の 1 年目として、18 の環境目標に取り組み 17 項目で目標を達成しました。

○：目標達成 ×：目標未達成

項目	内容	2022 年度				
		目標	実績	評価		
Green Solution	環境配慮型製品の継続的な創出と提供 	エネルギー効率トップレベル製品の創出	スキャナー製品	国際エネルギースターPro Ver3.X 適合製品 100%(2 機種)	国際エネルギースターPro Ver3.X 適合製品 100%(2 機種)	○
			組込みコンピューティング製品	製品環境性能指数 4.48 以下	製品環境性能指数 4.40	○
				顧客先環境貢献 7,800t-CO <sub>2</sub> 以上	顧客先環境貢献 7,803t-CO <sub>2</sub>	○
			情報 KIOSK 端末	製品環境性能指数 15.80 以下	製品環境性能指数 15.74	○
				顧客先環境貢献 1,437t-CO <sub>2</sub> 以上	顧客先環境貢献 1,765t-CO <sub>2</sub>	○
			ネットワークアライアンス製品	製品環境性能指数 0.546 以下	製品環境性能指数 0.545	○
				顧客先環境貢献 271.9t-CO <sub>2</sub> 以上	顧客先環境貢献 274.8t-CO <sub>2</sub>	○
			セキュリティ製品	製品環境性能指数 0.264 以下	製品環境性能指数 0.264	○
		顧客先環境貢献 630t-CO <sub>2</sub> 以上		顧客先環境貢献 631.7t-CO <sub>2</sub>	○	
		ソリューション	顧客先環境貢献 4,564t-CO <sub>2</sub> 以上	顧客先環境貢献 6,736t-CO <sub>2</sub>	○	
環境ラベル適合 (米国 EPEAT)	スキャナー製品	米国 EPEAT 維持・拡大 適合製品 100%(2 機種)	米国 EPEAT 維持・拡大 適合製品 100%(2 機種)	○		
2	環境配慮ソリューション・サービスの推進 	環境に配慮したソリューション、サービスの提供拡大による顧客先業務における環境負荷低減	各部門 1 項目以上 (対象 9 部門)	各部門 1 項目以上 (9 部門全て目標達成)	○	
3	グリーン調達 の推進 	積極的に環境配慮に取り組む取引先からの調達推進	サプライチェーン上流における CO <sub>2</sub> 排出量削減、及び水資源保全の取り組みを推進：取引先の活動状況把握 100%(18 社)	サプライチェーン上流における CO <sub>2</sub> 排出量削減、及び水資源保全の取り組みを推進：取引先の活動状況把握 100%(18 社)	○	
Green Process	4	品質向上、業務効率化 	業務改善で環境負荷低減	各部門 1 項目以上 (対象 25 部門)	各部門 1 項目以上 (25 部門中 24 部門にて目標達成)	×
	5	地球温暖化対策の推進 	事業拠点の GHG 排出量を削減	GHG 排出量：5,901 t-CO <sub>2</sub> 以下 (2013 年度比:38%削減)	GHG 排出量：4,930 t-CO <sub>2</sub> (2013 年度比:40%削減)	○
Green Mind	6	環境行動文化の浸透 	環境社会貢献活動、生物多様性保全活動、環境運用改善	社会貢献活動推進 (21 件)	社会貢献活動の推進 (21 件)	○
				環境情報の共有・発信・環境活動運用改善の推進 (14 件)	環境情報の共有・発信・環境活動運用改善の推進 (14 件)	○
				マネジメントシステム継続的改善	リコ-ISO14001 統合認証への移行完了	○

## 環境配慮型製品

当社は、「省エネルギー」、「3R 設計(注 1)」、「含有化学物質」などに対応した「環境配慮型製品」を開発し、製品のライフサイクル全体での環境負荷低減を目指しています。2022 年度は、環境性能の優れた製品をより多く提供することでお客様先での環境負荷低減に貢献するため、すべての事業部門において製品・ソリューション・サービスの環境性能向上を環境目標に設定して活動に取り組み、環境に配慮した製品開発・提供を推進しました。

### 2022 年度の主な成果

エネルギー 効率 トップレベル 製品の創出	スキャナー 製品	国際エネルギースタープログラム Ver3.0 を、新規開発機種で計画通り 2 機種適合しました。
	組込コンピューティング 製品	独自に定義した環境性能指数を改善することで、製品使用による環境貢献に取り組みました。 また、製品導入によるお客様先での環境負荷低減に取り組みました。
	情報 KIOSK 端末	独自に定義した環境性能指数を改善することで、製品使用による環境貢献に取り組みました。 また、製品導入によるお客様先での環境負荷低減に取り組みました。
	セキュリティ 製品	独自に定義した環境性能指数を改善することで、製品使用による環境貢献に取り組みました。 また、製品導入によるお客様先での環境負荷低減に取り組みました。
	ソリューション	ソリューション導入によるお客様先での環境負荷低減に取り組みました。
	カスタムサービス	提供サービスによるお客様先での環境負荷低減に取り組みました。
環境 ラベル 適合	スキャナー 製品	米国政府系機関を中心にグリーン購入促進制度で採用されている電子製品環境評価システム EPEAT(Electronic Product Environmental Assessment Tool) を、北米展開予定の新機種について計画通り 2 機種、取得しました。
		エコマーク商品として、3R 設計や省エネ性能など環境配慮への取り組みが認められ、2 製品が認定されました。

(注 1)3R 設計 : Reduce(発生抑制)・Reuse(再使用)・Recycle(再資源化)を考慮した設計

### 2022 年度の主な環境配慮型新製品

省エネルギー、3 R 設計によりグリーン購入法に適合し、さらに各種環境規格に適合した製品を提供してお客様の業務における環境負荷軽減に貢献します。スキャナー製品の環境規格適合状況は、当社の公開 HP で公開しています。



fi-8040



fi-70F

- ・グリーン購入法に適合
- ・国際エネルギースタープログラム Ver.3.0 適合  
スリープ時消費電力 :  
fi-8040 1.9W 以下  
fi-70F 2.0W 以下
- ・エコマーク商品  
fi-8040 22 155 056  
fi-70F 22 155 039



- ・化学物質規制(RoHS 指令等)に対応

## 環境配慮ソリューション・サービス

「業務効率化」「物の消費の削減」「物の移動の削減」「スペースの有効活用」により、お客様業務における省エネ、ペーパーレスなどの環境負荷低減に貢献する環境配慮ソリューション、サービスを提供しています。2022 年度は、各種ソリューション、サービスの開発・出荷やスキャナーを活用したソリューション、サービスの提供拡大など、お客様の業務における環境負荷低減に寄与する活動を推進しました。

### 2022 年度の主な成果

	活動内容	製品
環境に配慮したソリューション、サービスを提供拡大し、顧客先業務における環境負荷低減に寄与	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境配慮ソリューションの開発、出荷</li> <li>・スキャナーを活用したソリューション・サービスの提供拡大</li> <li>・仮想化、クラウド商談推進、など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DynaEye 11</li> <li>・BIP Smart</li> <li>・PaperStream Capture</li> </ul>

### ■ 帳票情報の電子化（読取精度の大幅向上）

まだ多くのお客様、特に自治体や官公庁の現場では紙を使った業務が残っており、申請書類のデータ入力に多くの時間を費やしています。

イメージスキャナーと OCR ソフトウェア「DynaEye」の組合せ適用により申請書類のデータ入力時間削減を実現しています。

また、最新版の「DynaEye 11」では、AI-OCR（AI 日本語手書き OCR）の読取精度が大幅に向上しました（認識精度：96.1% →99.2%（弊社基準帳票にて測定））。手書きの紙帳票を取り扱うことが多い自治体の現場で多く見られる斜めに傾いた記入、書き損じによる取り消し線に加え、これまで認識が困難だった枠外にはみ出た記入に対しても、高精度な読取が可能になりました。



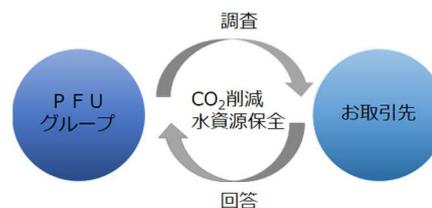
## グリーン調達

環境負荷の少ない製品を提供するため、お取引先への基本的な要件をまとめた「PFU グループグリーン調達基準」を定め、お取引先とともに活動を推進しています。

2022 年度は、対象取引先に対してサプライチェーン上流における CO<sub>2</sub> 削減、及び水資源保全の取り組みを推進し、新規取引先の活動状況を把握しました。

### 2022 年度の主な成果

積極的に環境配慮に取り組む取引先からの調達を推進	サプライチェーン上流への CO <sub>2</sub> 削減、及び水資源保全の取り組みを推進 新規取引先 18 社に対して把握(100%)
--------------------------	---------------------------------------------------------------------------



## 品質向上、業務効率化

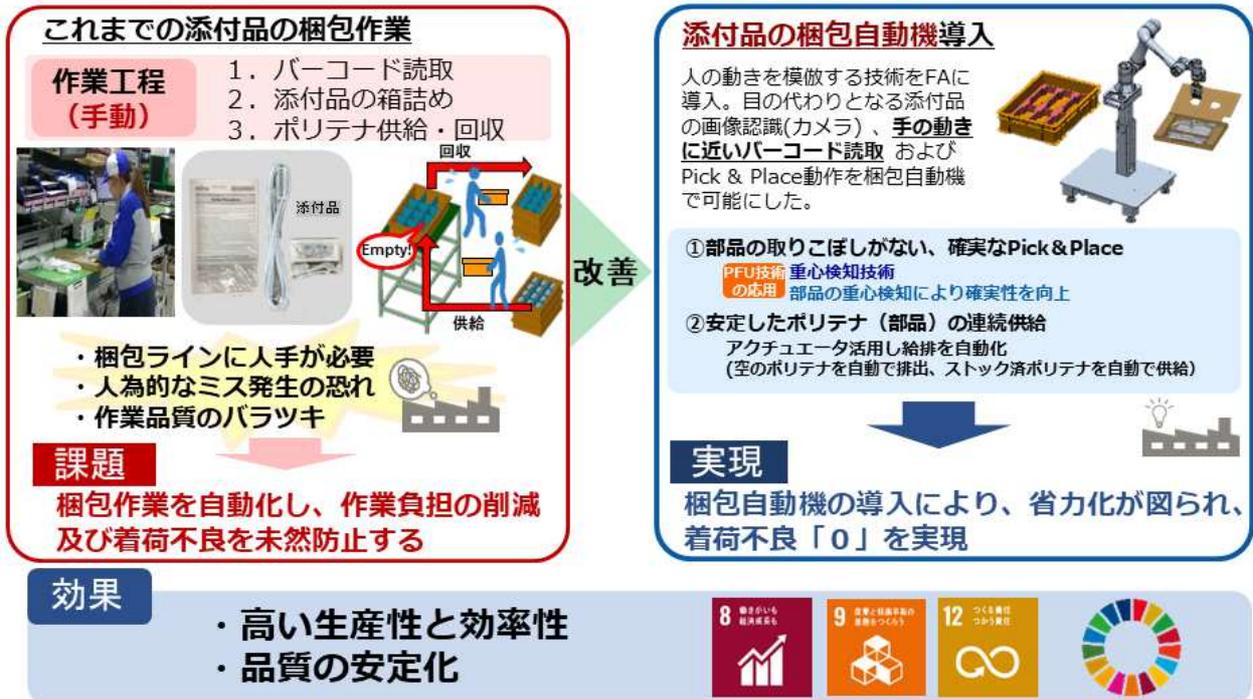
社内業務においても、IT を活用した業務効率化や品質向上による環境負荷低減を推進し、本業に傾注する環境活動を推進しています。

2022 年度は、全部門で本業における品質向上・業務効率化を推進しました。

### 2022 年度の改善事例

#### ■ 梱包自動機導入による生産強化と品質向上

梱包作業工程での生産強化と品質向上のため、添付品の梱包自動機を導入し、**生産性や品質向上に取り組んでいます。**



## 地球温暖化対策

地球温暖化防止のためエネルギー消費量(注 2)を削減する省エネ活動に取り組んでいます。

2022年度は、空調設備用静電気除去シートの設置や窓の二重化などによる省エネ活動、再生可能エネルギーの活用拡大などに取り組みました。

(注 2)エネルギー消費量：購入電力、ガス、熱の使用量を CO<sub>2</sub> 換算した量(t-CO<sub>2</sub>)

### エネルギー消費量 (CO<sub>2</sub> 換算値 : t-CO<sub>2</sub>)

エネルギー消費量	2022 年度目標	2022 年度実績
	5,091 t-CO <sub>2</sub> 以下	4,930 t-CO <sub>2</sub>

#### ■ 空調設備用静電気除去シート設置による省エネ

ProDeS センターでは、空調室内機に静電気除去シートを設置し、熱交換効率を向上させて省エネを実現しました。

##### 省エネ実績

設置場所	ProDeS センター
設置時期	2022 年 4 月
CO <sub>2</sub> 削減量	16.1 t-CO <sub>2</sub>



#### ■ 窓の二重化による省エネ

本社では、一部の窓を二重化（二重サッシ）し、断熱効果を向上させて省エネを実現しました。窓の二重化は遮音や結露対策にも効果を発揮しています。

##### 省エネ実績

設置場所	本社
設置時期	2023 年 1 月
CO <sub>2</sub> 削減量	5.0 t-CO <sub>2</sub>



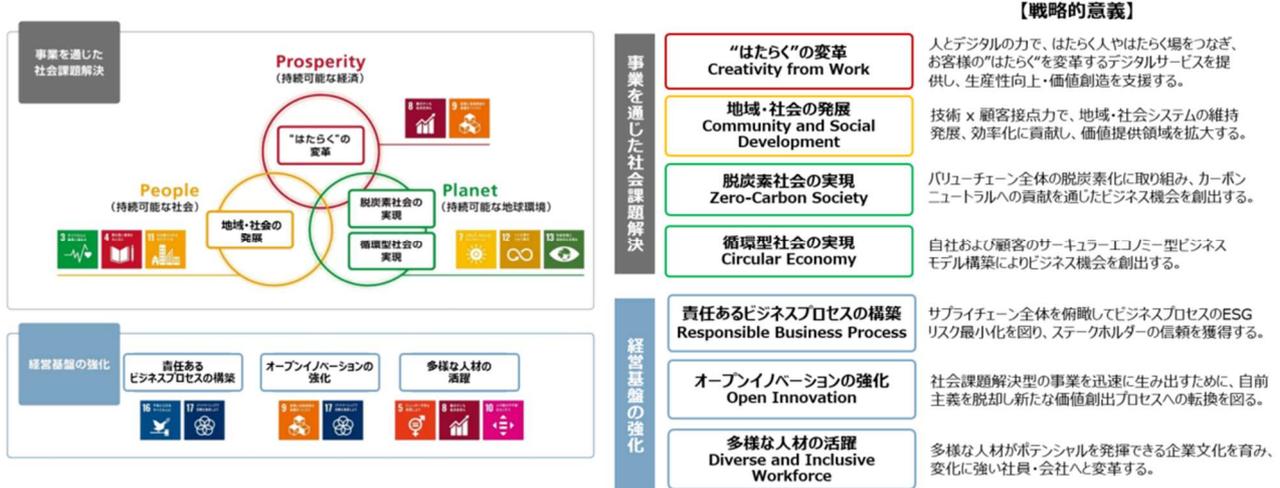


## 2023 年度から 2025 年度の活動計画

リコーグループでは、「事業を通じた社会課題解決」とそれを支える「経営基盤の強化」の 2 つの領域で 7 つのマテリアリティを特定するとともに、各マテリアリティに紐づく ESG 目標を設定しています。

PFU ではリコーグループ ESG 目標と整合した ESG 目標を設定し、第 10 次環境行動計画(2022 年度～2024 年度)を PFU ESG 目標(2023 年度～2025 年度)へ移行いたしました。

## 7 つのマテリアリティと SDGs



## PFU ESG 目標

マテリアリティ	ESG 指標	2023 年度	2024 年度	2025 年度		
事業を通じた社会課題解決	<b>“はたらく”の変革</b>	高い付加価値でお客様の業務効率化に貢献するハイエンドスキャナの販売台数 (fi シリーズ：グローバル販売台数)	433,000 台	442,000 台	448,000 台	
	<b>脱炭素社会の実現</b>	GHG スコープ 1,2 削減率	5,947t-CO2	5,332t-CO2	4,697t-CO2	
		GHG スコープ 3 削減率	国際エネルギースタープログラム Ver3.X 適合	100%	100%	100%
			米国 EPEAT 取得対応	100%	100%	100%
			製品環境性能指数	組込みコンピューティング製品	4.39 以下	4.30 以下
		情報 KIOSK 端末		14.44 以下	11.33 以下	10.46 以下
		ネットワークアライアンス製品		0.546 以下	0.546 以下	0.546 以下
		セキュリティ製品		0.256 以下	0.256 以下	0.256 以下
		製品導入による顧客先環境貢献量	組込みコンピューティング製品	7,956t-CO2	8,115t-CO2	8,277t-CO2
			情報 KIOSK 端末	1,628t-CO2	1,164t-CO2	762t-CO2
			ネットワークアライアンス製品	277t-CO2	226t-CO2	190t-CO2
			セキュリティ製品	648.4t-CO2	657.8t-CO2	649.6t-CO2
		環境配慮ソリューションによる顧客先環境貢献	ドキュメント	724.6t-CO2	773.5t-CO2	839.3t-CO2
			ソリューション	3,960t-CO2	4,023t-CO2	4,109t-CO2

「事業を通じた社会課題解決」の領域のマテリアリティ「循環型社会の実現」、「経営基盤の強化」の領域のマテリアリティ「責任あるビジネスプロセスの構築」「多様な人材の活躍」に係る ESG 目標は、2023 年度中に設定予定。



## 環境啓発・コミュニケーション

環境情報の共有などを実施し、社員の環境啓発に取り組んでいます。  
また、お客様などから当社へ寄せられた環境に関する問合せに対応しています。

### PFU ものづくりラボ・キャンプ 2022 開催

2022年7月30日（土）、8月7日（日）と9月3日（土）、PFU 本社にて「PFU ものづくりラボ・キャンプ 2022」を開催しました。

2007年から地元かほく市の子供たちを対象に開催しているイベントで、今年で12回目となります。

かほく市教育委員会のかほく市民大学校「親子体験コース」と連携して開催しており、2022年度はかほく市より「石川県小学生プログラミングコンテスト」の応募者の育成に繋がるイベントの要請があり「ものづくりラボ・キャンプ」と名称を変更し、応募者育成を兼ねた全3回（3日間）コースのカリキュラムで開催しました。

かほく市内および社員家族を含めた小学4～6年生を対象に親子20組に対し実施しました。



ものづくりラボ・キャンプ 2022

### 環境情報の共有

社内イントラの環境情報ページにて、以下の環境に関する情報を共有し、継続的に環境の改善に取り組んでいます。

- ・環境方針、活動計画、実施状況
- ・保有設備、使用化学物質
- ・環境法規制情報／順守状況
- ・環境パフォーマンスデータ  
（電力、熱、ガソリン、軽油、灯油、ガス、水、廃棄物）
- ・環境に関するニュース、トピックス 他



社内向け環境情報  
ポータルサイト

### 社外からの要望、問合せ

お客様、行政、業界団体など多方面から当社へ寄せられた環境に関連するアンケートや調査依頼等の要望や問合せに対して、2022年度は178件の対応を実施しました。環境クレームはありませんでした。

	ご要望、問合せ	受付件数
1	製品・サービスに関する依頼（例：REACH/RoHS 調査依頼、顧客指定化学物質調査 等）	114 件
2	製品以外の依頼（例：お客様、行政、業界団体等からの環境に関するデータ提供 等）	64 件
	合計	178 件

## 情報開示

公開ホームページやイベントなどを通じて、「環境配慮型製品情報」や「環境活動」を発信・紹介しています。当社は、サステナビリティ・SDGs 情報を Web サイトで開示しています。

### サステナビリティホームページ

PFU 公開サイトの中に「サステナビリティ」ページを設けて「サステナブル経営」、「E 環境」、「S 社会」、「G ガバナンス」に関する考え方や取り組み、これからの方向性を掲載して「社会課題の解決」や「持続可能な社会形成」に貢献できる企業を目指した活動を展開しています。社内向け情報発信の環境も整えて、PFU グループで働く方の SDGs 意識の高揚を図っています。



サステナビリティホームページ

### 環境報告書

1994 年より環境年次報告として「環境報告書」を発行（英語版は 2003 年～）し、当社公開ホームページで情報開示しています。また、公開ホームページでは最新の環境配慮型製品の情報も開示しています。



環境報告書

### ショールーム

国内の主要事業所ではショールームを設置しており、環境配慮型製品であるスキャナーや組み込みコンピュータ製品、環境配慮ソリューションなどを展示しています。



本社



横浜本社

### イベントにおけるグリーン電力の使用

「PFU クリスマスチャリティコンサート」(12 月 10 日:金沢開催)において、会場で使用した機器の使用電力をすべて風力発電によるグリーン電力でまかない、国内の自然エネルギー普及や地球温暖化の抑制に貢献しました。



グリーン電力証書

# 環境パフォーマンスデータ

## 環境保全

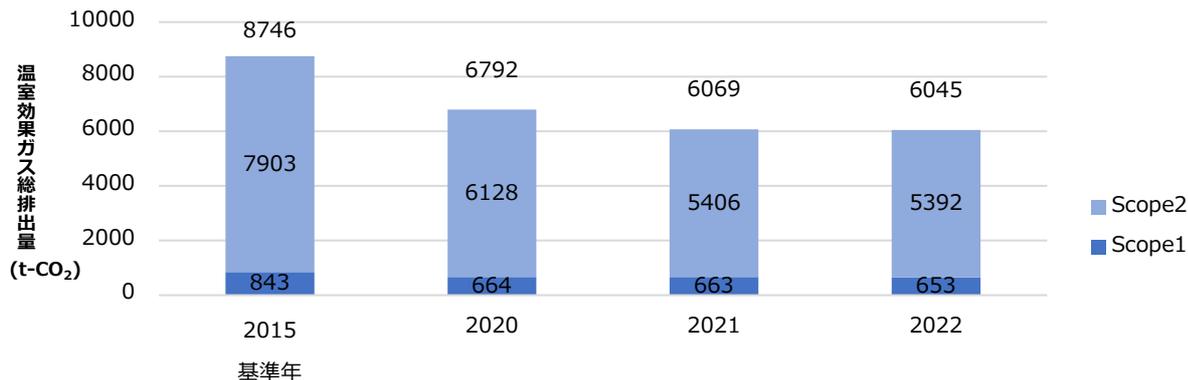
事業所とその周辺の環境保全と法令遵守の観点から、設備の維持管理、化学物質の適正管理を行い、汚染防止を図っています。

また、事業に伴い排出／使用される温室効果ガス、廃棄物、水資源などの実績量を把握し、当社事業所における環境負荷状況の監視を定期的に行っています。

## 環境負荷

### 温室効果ガス(GHG)総排出量 (Scope1、Scope2)

二酸化炭素に換算した当社事業所の温室効果ガス総排出量は以下の通りです。



上記の温室効果ガス総排出量は、WRI/WBCSD GHG プロトコルの Scope1 と Scope2 の合計(t-CO<sub>2</sub>)

- ・Scope1：ガソリン・軽油(社有車、構内利用)、液化石油ガス(食堂厨房)、都市ガス(冷暖房)、灯油(暖房)
- ・Scope2：購入電力、熱(横浜本社の地域冷暖房)

【換算係数】購入電力：省エネ法報告値の電力会社毎の換算係数を使用

液化石油ガス：5.98t-CO<sub>2</sub>/千m<sup>3</sup> (固定)、都市ガス：2.23t-CO<sub>2</sub>/千m<sup>3</sup> (固定)

熱：0.057t-CO<sub>2</sub>/GJ (固定)、ガソリン：2.32t-CO<sub>2</sub>/kL (固定)

軽油：2.619t-CO<sub>2</sub>/kL (固定)、灯油：2.49t-CO<sub>2</sub>/kL (固定)

## 電力使用量

当社事業所の電力量は以下の通りです。

	単位	2015年度 基準年	2020年度	2021年度	2022年度
総電力量	MW h	13636	12741	11849	11663
再生可能エネルギー由来の電力	MW h	0	0	321	690
再生可能エネルギー比率	%	0.0	0.0	2.7	5.9

## 温室効果ガス(GHG)総排出量 (Scope3)

二酸化炭素に換算した温室効果ガス総排出量は以下の通りです。

カテゴリ	カテゴリ名	排出量[t-CO <sub>2</sub> ]				2022年度 Scope3全体に占める割合[%]
		2015年度 基準年	2020年度	2021年度	2022年度	
カテゴリ1	購入した製品・サービス	110,727.4	101,339.2	111,633.0	125,254.0	86.7
カテゴリ2	資本財	4,580.3	7,554.4	1,924.8	4,127.3	2.9
カテゴリ3	Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー関連活動	5,331.4	4,549.2	4,485.0	4,335.5	3.0
カテゴリ4	輸送、配送（上流）	611.7	678.3	1,152.9	491.0	0.3
カテゴリ5	事業から出る廃棄物	62.1	50.5	50.8	44.0	0.0
カテゴリ6	出張	991.5	161.5	421.1	703.8	0.5
カテゴリ7	雇用者の通勤	3,997.2	4,289.3	2,451.9	2,453.2	1.7
カテゴリ8	リース資産（上流）	対象外	対象外	対象外	対象外	対象外
カテゴリ9	輸送、配送（下流）	対象外	対象外	対象外	対象外	対象外
カテゴリ10	販売した製品の加工	対象外	対象外	対象外	対象外	対象外
カテゴリ11	販売した製品の使用	8,816.9	10,138.8	11,102.9	7,075.4	4.9
カテゴリ12	販売した製品の廃棄	対象外	対象外	対象外	対象外	対象外
カテゴリ13	リース資産（下流）	対象外	対象外	対象外	対象外	対象外
カテゴリ14	フランチャイズ	対象外	対象外	対象外	対象外	対象外
カテゴリ15	投資	対象外	対象外	対象外	対象外	対象外
合計		135,118.6	128,761.2	133,222.4	144,484.1	100.0

## 廃棄物等総発生量

当社事業所の廃棄物等総発生量は以下の通りです。事務所系、工場系のすべての事業所において、廃棄物のゼロエミッション(注3)を達成しています。

一般可燃物を RDF 化した場合など、サーマルリサイクル後の残さについても、路盤材やセメントの原料として有効利用されていることを確認しています。

廃棄物発生量は、2012年度から2014年度の平均555トンの5%以上削減した量527トン以下に抑制することを目標として取り組みました。2022年度実績は304トン(42%減)となり目標を達成しました。



(注3) 事業所から排出された廃棄物をすべてリサイクルなどにより有効利用し、単純焼却と埋め立て処理を0.5%未満にするものと定義しています。この廃棄物とは汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、紙くず、金属くず、木くず、繊維くず、ガラス・陶磁器くず、動植物残さ(食堂生ゴミ)の11種を対象としています(医療系廃棄物は対象外)。

(備考) 有価物量は、有償売却された量と定義しています。最終処分量は、再資源化、熱回収、単純焼却以外の残さ量(埋立)と定義しています。

## 水資源総使用量・総排水量

当社事業所の水資源総使用量・総排水量は以下の通りです。

### ■ 水資源総使用量

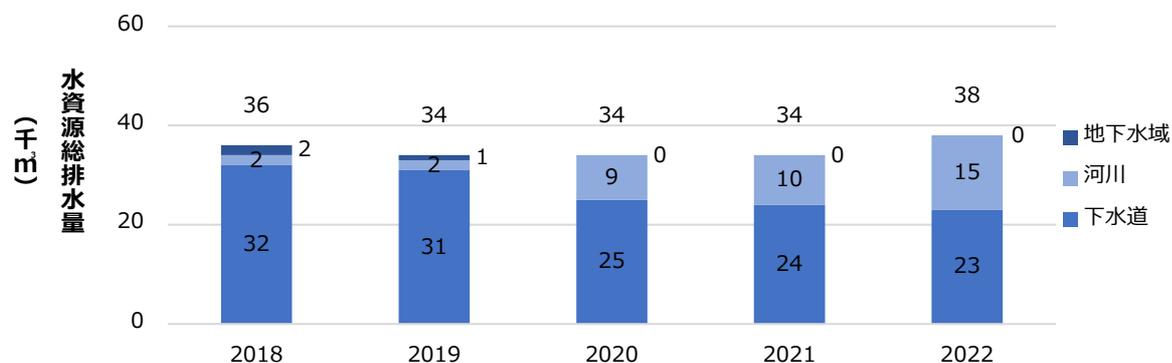


水資源の用途は、全事業所における生活用水と冬季の館内加湿(水道水)及び、本社における夏季の植栽散水(地下水)、本社と ProDeS センターにおける融雪(地下水)です。当社事業所では水資源を生活用水として使用しています(工業用水には使用していません)。

水資源総使用量は、2018 年を基準年として 2022 年度に 1%以上削減 35.6 千 m<sup>3</sup>以下とすることを目標として取り組みました。2022 年度は、例年より降雪量が多く融雪(地下水)が増加したため、実績 38 千 m<sup>3</sup> (2.4%増)で目標未達成となりました。

水資源は生活用水として使用しており、再使用やリサイクルに使用している水資源はありません。

### ■ 水資源総排水量



排出した水資源の内訳は、生活排水(下水道)、融雪用の地下水利用(河川)、植栽、農園の野菜等の散水(地下水域)です。事業所から排水する水質を確保するために自主管理値を設定し、継続的に水質の監視・測定を行っています。

2022 年度は、融雪のための地下水使用量が増加し、河川への排水量が増加しました。

## 化学物質取扱実績

設計・開発、評価、製造、保守、構内清掃などに使用する化学物質について、その量に関わらず年間取扱量を集計しています。

### ■ PRTR 法対象化学物質

2022 年度の PRTR 法対象化学物質取扱量は以下の通りであり、都道府県等へ届出が必要な年間取扱量に達した化学物質はありませんでした(注 4)。

なお、特定第一種指定化学物質の取扱はありませんでした。

取扱量は、2012～2014 年度の平均 0.132 トン以下に抑制することを目標として取り組みました。2022 年度実績は 0.098 トン(9%減)となりました。

PRTR 法対象化学物質の年間取扱量(第一種指定化学物質) (トン)

化学物質名	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
直鎖アルキルベンゼンスルホン酸	0.034	0.031	0.044	0.031	0.031
ポリオキシエチレンアルキルエーテル	0.021	0.022	0.022	0.019	0.023
2-アミノエタノール	0.021	0.026	0.027	0.025	0.019
銀及びその水溶性化合物	0.028	0.039	0.031	0.022	0.019
メタクリル酸メチル	0.000	0.000	0.006	0.006	0.004
メチレンビス(4, 1-フェニレン) = ジイソシアネート	0.000	0.000	0.000	0.000	0.001
ドデシルエーテル硫酸エステルナトリウム	0.002	0.001	0.001	0.001	0.001
2,6-ジ-ターシャリーブチル-4-クレゾール	0.000	0.000	0.000	0.001	0.000
メタクリル酸	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
ノルマル-ヘキサン	0.001	0.001	0.001	0.001	0.000
その他	0.016	0.002	0.001	0.001	0.000
合計	0.135	0.123	0.136	0.107	0.098

(注 4)第一種指定化学物質は 1 トン/年以上、特定第一種指定化学物質は 0.5 トン/年以上

### ■ VOC(揮発性有機化合物)

VOC の排出規制対象となる特定施設はありませんが、自主的な取り組みとして VOC 取扱量の維持管理を行っています。

取扱量は、2012～2014 年度の平均 1.266 トン以下に抑制することを目標として取り組みました。2022 年度実績は 0.614 トン(35%減)となり目標を達成しました。

VOC の年間取扱量 (トン)

化学物質名	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
イソプロピルアルコール	0.746	0.770	0.790	0.809	0.465
酢酸ブチル	0.056	0.066	0.046	0.058	0.074
エタノール	0.150	0.134	0.097	0.053	0.052
その他	0.030	0.043	0.017	0.018	0.023
合計	0.982	1.013	0.950	0.938	0.614

### ■ 温室効果ガス

当社で取り扱っている 2022 年度の温室効果ガス取扱量は以下の通りです。2022 年度の年間取扱量を二酸化炭素に換算すると約 6 トンに相当します。

取扱量の削減目標は、当社事業所全体の温室効果ガス総排出量削減として取り組んでいます。

温室効果ガスの年間取扱量(二酸化炭素換算) (トン)

化学物質名	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
1・1・1・2-テトラフルオロエタン(HFC-134a)	23.271	13.974	11.517	7.061	6.155
1・1-ジフルオロエタン(HFC-152a)	0.023	0.000	0.054	0.059	0.233
非エネルギー起源二酸化炭素	0.001	0.000	0.001	0.000	0.000
合計	23.295	13.974	11.572	7.120	6.388

## 環境法令遵守

事業所とその周辺の環境保全と法令遵守の観点から、水質、騒音／振動の定期的な測定を実施しています。

### ■ 水質測定結果

本社、ProDeS センター、PFU テクノワイズ高松工場では、事業所からの排水の水質維持に取り組んでいます。測定の結果、測定値は法規制値を超えておらず、水質に問題はありませんでした。

	規制項目	単位	法規制値	2022 年度測定値	判定
本社 (A・B棟)	水素イオン濃度(pH)	—	5 を超え 9 未満	8.6	○
	生物化学的酸素要求量(BOD)	mg/L	600 未満	300	
	浮遊物質質量(SS)	mg/L	600 未満	220	
	鉱物油	mg/L	5 以下	0.5 未満	
	動植物油	mg/L	30 以下	9.8	
	アンモニア性窒素, 亜硝酸性窒素, 硝酸性窒素含有量	mg/L	380 未満	33	
本社 (E棟)	水素イオン濃度(pH)	—	5 を超え 9 未満	7.5	○
	生物化学的酸素要求量(BOD)	mg/L	600 未満	18	
	浮遊物質質量(SS)	mg/L	600 未満	50	
	鉱物油	mg/L	5 以下	0.5 未満	
	動植物油	mg/L	30 以下	0.8	
	アンモニア性窒素, 亜硝酸性窒素, 硝酸性窒素含有量	mg/L	380 未満	1 未満	
本社 (電波暗室)	水素イオン濃度(pH)	—	5 を超え 9 未満	7.7	○
	生物化学的酸素要求量(BOD)	mg/L	600 未満	3.6	
	浮遊物質質量(SS)	mg/L	600 未満	1 未満	
	鉱物油	mg/L	5 以下	0.5 未満	
	動植物油	mg/L	30 以下	0.5 未満	
	アンモニア性窒素, 亜硝酸性窒素, 硝酸性窒素含有量	mg/L	380 未満	1 未満	
ProDeS センター I	水素イオン濃度(pH)	—	5 を超え 9 未満	7.5	○
	生物化学的酸素要求量(BOD)	mg/L	600 未満	290	
	浮遊物質質量(SS)	mg/L	600 未満	210	
	鉱物油	mg/L	5 以下	0.5 未満	
	動植物油	mg/L	30 以下	23	
	アンモニア性窒素, 亜硝酸性窒素, 硝酸性窒素含有量	mg/L	380 未満	21	
PFU テクノワイズ 高松工場 (2・3棟)	水素イオン濃度(pH)	—	5 を超え 9 未満	7.5	○
	生物化学的酸素要求量(BOD)	mg/L	600 未満	1 未満	
	浮遊物質質量(SS)	mg/L	600 未満	2	
	鉱物油	mg/L	5 以下	1 未満	
	動植物油	mg/L	30 以下	1 未満	
	アンモニア性窒素, 亜硝酸性窒素, 硝酸性窒素含有量	mg/L	380 未満	0.6	

## ■騒音／振動測定

本社では、事業活動に伴い発生する騒音及び振動の測定を定期的に行っています(1回/5年)。2020年6月10日に測定を実施し、いずれも法規制値を下回ることを確認しました(次回測定は2025年度実施予定)。

### 騒音測定結果

	騒音項目	単位	法規制値	2020年度測定値				判定
				E棟北側	A棟南西側	電波暗室北側	南側駐車場	
本社	昼間	dB	65以下	34	47	46	—	○
	朝	dB	60以下	34	47	46	—	
	夕	dB	60以下	34	47	46	—	
	夜間	dB	50以下	34	47	46	—	
	昼間	dB	60以下 (注5)	—	—	—	40	
	朝	dB	55以下 (注5)	—	—	—	40	
	夕	dB	55以下 (注5)	—	—	—	40	
	夜間	dB	45以下 (注5)	—	—	—	40	

(注5)学校の敷地境界線より50m以内の区域にあるため、5デシベル減じた規制値となります。

### 振動測定実績

	振動項目	単位	法規制値	2020年度測定値				判定
				E棟北側	A棟南西側	電波暗室北側	南側駐車場	
本社	昼間	dB	65以下	27	30	31	—	○
	夜間	dB	50以下	27	30	31	—	
	昼間	dB	60以下 (注6)	—	—	—	29	
	夜間	dB	45以下 (注6)	—	—	—	29	

(注6)学校の敷地境界線より50m以内の区域にあるため、5デシベル減じた規制値となります。

## 内部監査・外部審査

### 内部監査

内部監査は社内監査員に認定された社員により実施しており、環境方針に沿って各部門が立てた環境活動目標の実施や法令を含む各種の決まりを守っているかどうか等を確認し、不具合の改善や良い活動の社内への普及に役立っています。

2022年度は2022年9月20日～9月29日に17部門を対象に、2023年2月1日～2月22日に39拠点を対象に内部監査を実施し、不適合3件、要改善点9件、良い事例18件を抽出しました(法令違反なし)。

### 外部審査

2022年11月17日～22日には、リコーグループ統合環境マネジメントシステム審査として、日本品質保証機構(JQA)による認証審査を受けました。審査の結果、不適合なし、要改善点5件、高評価1件でした。リコーグループとのESG統合において、計画に沿って統合に向けた作業が進んでいると評価されました。

### 2022年度 内部監査・外部審査結果

(件)

区分	内部監査			外部審査		
	不適合	要改善点	良い事例	不適合	要改善点	高評価
検出件数	3	9	18	0	5	1

# PFU グループの取り組み

## PFU IT サービス株式会社

2022 年度は、引続きコロナ禍で地域貢献イベントが少ない中、下記地域で開催される「社会貢献活動（清掃活動）」に参加しました。

- 4 月：宮城県仙台市「宮城野通り清掃活動」（仙台 SC）
- 5・8・11・2 月（4 回/年）：神奈川県横浜市「ハマロード・サポーター（清掃活動）」（本社）
- 5 月：FM 石川ー海浜清掃 クリーン・ビーチいしかわ（金沢 SC）
- 5 月：福井県フェス 2022 みんなで一斉ごみ拾い（福井 SS）
- 9 月：FM とやま清掃キャンペーン～六渡寺海岸からゴミをなくすには（富山 SC）
- 2 月：佐賀城下ひなまつりおもてなし清掃活動（佐賀 SS）

今回実施した宮城野通り清掃活動は、日頃の清掃が行き届いており大きなゴミは目立ちませんでした。しかし、タバコの吸い殻やコンビニ弁当の容器、空き缶やペットボトルなどのゴミを回収しました。マナーが向上している昨今においても、まだポイ捨てをする方がいる事を痛感しました。

引き続き、地域イベントに積極的に参加し、環境活動に貢献していきます。



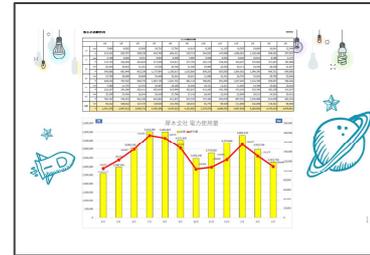
宮城野通り清掃活動  
(宮城県仙台市)



佐賀城下ひなまつりおもてなし清掃活動  
(佐賀県佐賀市)

## PFU クオリティサービス株式会社

昨年に引き続き、デジタルサイネージを利用して、従業員全員に環境活動の周知を実施しています。電力費の高騰が業績にも影響を与えることもあり、2022 年度は「省エネ」をテーマとしました。毎月の社内の電気使用量/電力費の削減量を提示することにより、節電への意識づけと省エネへの啓発活動を実施し、節電に貢献しました。



デジタルサイネージ(電力表示)

## PFU テクノワイズ株式会社

毎年、創業の原点である高松工場の除草作業を実施しています。2022 年度は、6 月にコロナ禍での大人数作業が制限される中、参加部署を絞り込み実施しました。作業当日は天候にも恵まれ、作業がはかどり予定どおり工場周辺の除草を終えることができました。



除草作業(高松工場)

## PFU ライフエージェンシー株式会社

産業廃棄物や一般廃棄物を収集・運搬し、適切な処分業者を通してリサイクルしています。

### 産業廃棄物収集運搬業

- 石川県 許可番号 第 01707052827 号

### 一般廃棄物収集運搬業

- 河北郡市 許可番号 第 07 号
- 金沢市 許可番号 第 25 号
- 白山市 許可番号 第 26 号

変わらぬ想い、変えてゆく未来。

PFU 環境報告書 2023

■発行■ 2023年8月(第2版)  
株式会社 PFU  
総務統括部 ESG 推進部  
〒929-1192 石川県かほく市宇野気ヌ 98-2  
TEL 076-283-1212(代)

© PFU Limited 2023